

人物植車輪の髪型を探る



鳥之組小学校 6年

竹正 結花

1.はじめに

私は、将来美容師になりたいと思っています。

自分の髪は毎日自分でしばっています。

休みの日は、ヘアバンドをつけたり、帽子をかぶったりもします。

今回私は夏休みに「古墳大国群馬へのあゆみ」の企画展を見に行きました。

そこで、たくさんの埴輪を見ました。

その中で私は人物埴輪を見て「っっ」の埴輪の髪型が違ふことに気がつきました。頭に何かのせている埴輪もいたり、長く垂した髪型やしばった髪型、帽子をかぶった埴輪もいました。

そこで、私は古墳時代の埴輪の髪型には何か意味があるのか、時代に合わせたオシャレなのか興味があき、調べてみたいと思いました。

2.そもそも人物埴輪は、いつ頃から出てきたのか!?

古墳の上やまわりに置かれた土の火焼きものを「埴輪」といいます。



埴輪は3世紀後半から6世紀までつくられました。すべての古墳に埴輪が置かれていたわけではありませんが、大きな古墳には、たくさんの種類や数の埴輪が置かれました。初期につくられた埴輪のほとんどが円筒埴輪で、古墳そのものと同じように被葬者の身分の高さに応じて大きさも区別されていました。

4世紀になると、王の権威を示す道具(器財埴輪)や死者のたましいが宿る家の形を表した埴輪(家形埴輪)が登場し、どちらも古墳の頂上に置かれました。

円筒埴輪の出現から約200年後の5世紀中頃になると、動物埴輪と人物埴輪が登場します。

それらは1体で存在したのではなく、行列する姿や群像として並べられており、王の葬送儀礼や生前に行った儀式の様子を表していると考えられています。

つまり、人物埴輪は5世紀中頃から作られ、王や巫女、武人、琴弾き、狩人、力士、農夫、馬子など王の儀式に関係した人物が作られた!

ちなみに



5世紀の海外では、東ローマ帝国が復活したり、隋が中国を統一したりしています。

3. 人物埴輪の髪型を探る!

～髪型はどのようなものがあるか? 髪型の意味とは?～

① ^{くわ}金杵を担ぐ男子 (赤土屈村 104号墳・群馬県で出土)



<思ったこと>

これは髪型に見える
耳の横はイヤリング
+ 木のかな

頭がとがっているのは
なぜだろう?

① 髪型の意味

古墳時代の男性のヘアスタイルは髪の毛を耳の前あたりで両方に2つにまとめてヒモでくくった「みずら」という髪型です。



▲ 馬子 (高崎市、綿貫観音山古墳)

① の土埴輪は左肩に金鈿をかつぐ農夫の土埴輪です。菅笠(すげがさ)のような帽子をかぶり、髪を耳のあたりで小さく束ねています。短い円柱状が多く、くの字形やひょうたん形、水平に突き出た円柱状、半球状などの種類があるようです。これは「上げみずら」と言っており、身分のそれほど高くない男性の儀式的な髪型だそう。金鈿は農具で、農業や土木作業に使用した代表的な道具です。

② 盛装の男子 (群馬県四ツ土家古墳で出土) <思ったこと>



中帽子をかぶっている!

髪をしばっているように見える

私には出来なそうな髪型

〈② 髪型の意味〉

②の埴輪は、高さ1m24cmの男性像です。中帽子をかぶり首には玉、月要には刀をさして着飾ったようです。



▲ 跪坐の男 (太田市、塚廻り古墳群第4号古墳)
▲ 男子埴輪 (富岡市、富岡5号古墳)

髪型は「下げみずら」と言い、身分の高い男性の儀式の髪型となります。長く垂らしている事が特徴で大きく凝ったものが目立ちます。ヒモでぐるぐる巻く、ヒモを交差させる、リボンなどの飾りをつけるなど、工夫されています。下端が上向きのもので、二股でカナリツの形のようなものもあります。肩より下まで垂れていることが多いですが肩にっかず宙を浮くものもあるそうです。

〈わか、た事〉

古墳時代の男性は長い髪が主流であり、農夫や馬子など身分の低いとされる男性は高い位置に、身分の高いとされる男性は低い位置に髪を束ねることで、見た目でも身分が分かるようになっていたのだと思いました。

私も、ツインテールをしたり、ポニーテールに草ヒモをぐるぐる巻きつけた髪型をした事があります。

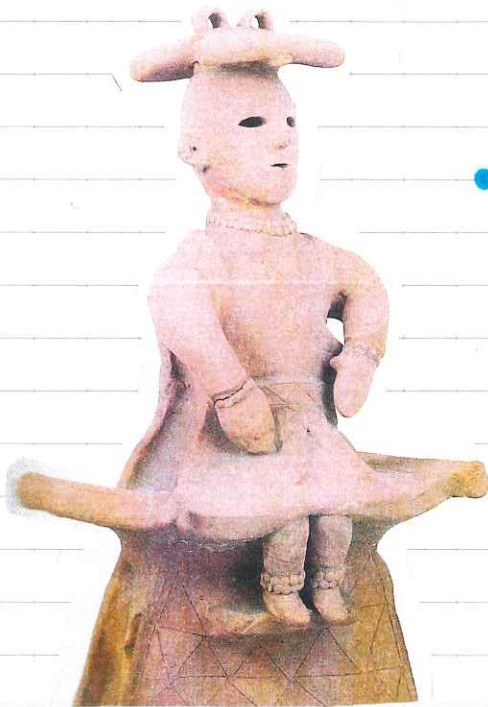
同じ「みずら」でもヒモでぐるぐる巻いたり、リボンなどの飾りをつけるところは、古墳時代の人のオシャレを感じました。

古墳時代の人の髪型は、なかなかオシャレですが髪型によって身分の違いを表しており、古墳時代は身分を重要と考えていることが分かりました。





③椅子に腰かける巫女 (群馬県大泉町で出土)



<思った事>

豆頭の上に板とまるい
ものがある

髪型なのか、中帽子
なのかかわからない


<③髪型の意味>

女性のヘアスタイルは頭の上で髪の毛を一つにまとめた「島田髷(しまだまげ)」のように結っていたようで、髪をリボンのような七毛やくし、かんざしで留めるときもあるようです。



▲ 正座し祭具を捧げる巫女 (高崎市、綿貫観音山古墳) ▲ 女子埴輪 (館林市、天神二子古墳)

③は身分の高い巫女の埴輪であり、長い髪を前後に折り曲げ、僧侶が着るような祭服をまとっています。首、手首、足首に玉飾りをつけています。この埴輪は豆頭に板を乗せているように見えますが、糸結った髪だそうです。女性埴輪にみられる髪型だそうです。「古墳島田」と呼ばれ、女性全般を表しているそうです。

※ちなみに  ← これはかざりの説がある!



〈わか、た事〉

古墳時代の女性には、頭の高い位置まで髪を持ち上げて束ねており、男性のように髪を垂らした束ね方はしていなかったことが分かりました。頭の上にあった板のようなものは、髪を束ねたものだと知り、こんなに前や後ろに大きく出た髪型にするのはすごく大変なのではないかと思いました。男性も女性も長い髪を活かした長髪型となっており、長髪を短く切るという習慣がなかったのではないかと思います。

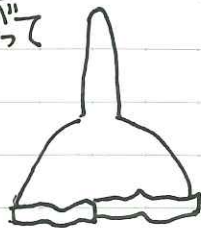
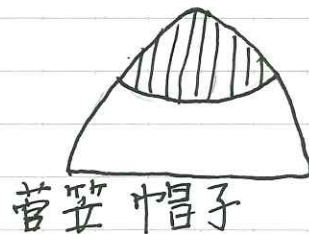


三人童女

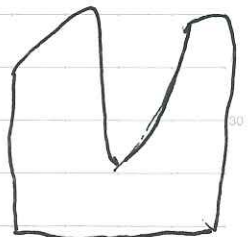
(綿貫観音山古墳から出土)

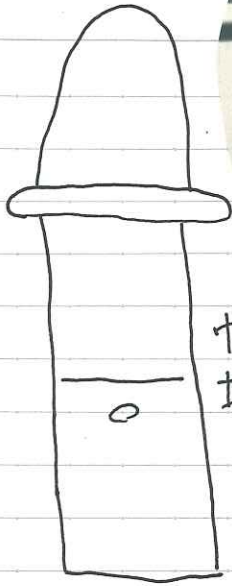
4. オシャレな帽子の数々

古墳時代の帽子は単にファッションアイテムと言うより、身分を表す役割があったようです。帽子だけの埴輪も出土しています。

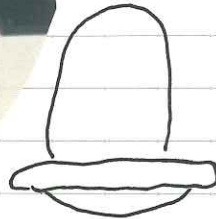
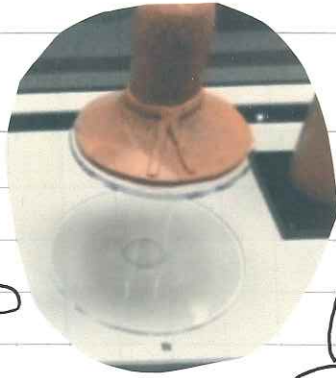


われているような帽子



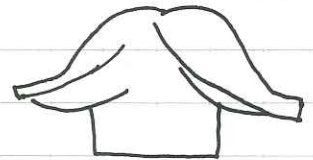


帽子だけの
埴輪



シルクハット
のような帽子

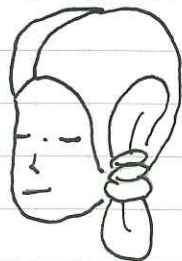
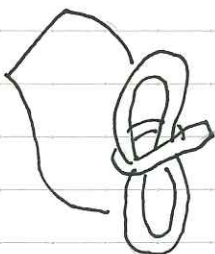
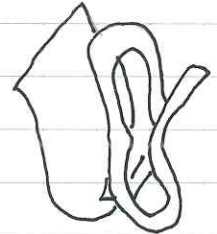
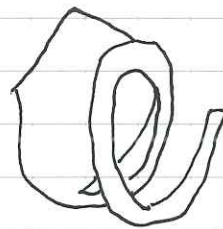
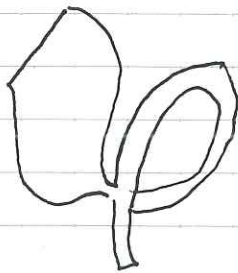
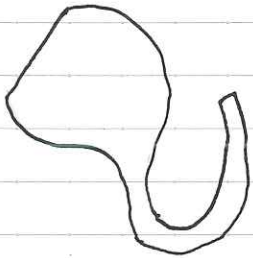
とがった
髪の毛のよ
うな帽子



5. 古墳時代の髪型は実際にできるのか？

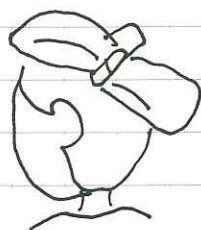
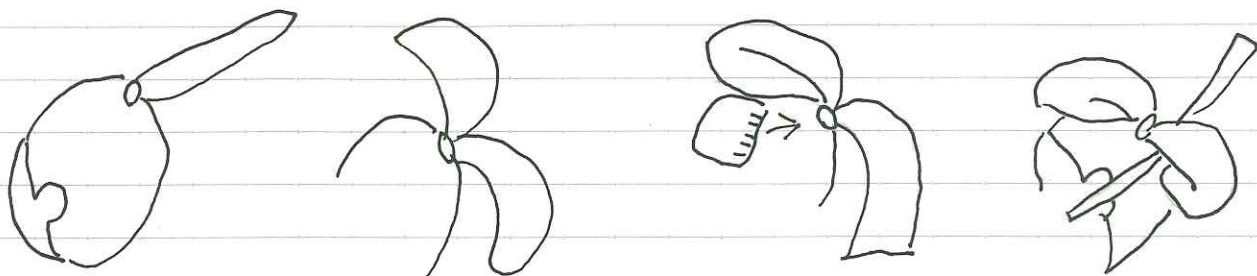
古墳時代の髪型を解説をもとにチャレンジしてみました。

古墳時代の埴輪(男子像)の髪型「みずら」



一見お下げの様であるが
これは男子だけが系ぎた
髪型です。長くのびた髪
を左右に振り分けてまとめ
折り曲げながら系ぎ上げる。

古墳時代の埴輪(女子像)「島田髻」



しとんと"が長くのぼした長髪を前後に分けて折り曲げ、その中央をヒモで"結ぶ、さらに前かくす"れないようにくして止めた表現がされている。



6. おわりに

私は、自由研究で埴輪の髪型を調べて、「上みずら」「下みずら」「島田髻」といった髪型などから小性別や身分が分かると知り、古墳時代の人々についての知識が増えたと感じました。

帽子にも今はないような、めずらしいとがっている帽子

などがあり、すごくおもしろかったです。
今回は髪型に注目して研究しましたが、古墳や かが玉、
三角縁神獣鏡など、また「また」ほぞが たくさんあり、
もっと古墳のことを知りたいと思いました。

参考文献

- ・ 東国文化副読本～古代くまを探検しよう～
- ・ 古墳のほぞがわかる本
- ・ たのしく学べる！日本と世界の歴史年表

見学施設

- ・ 県立歴史博物館